

町史編集委員会委員 委嘱状交付式・第105回町史編集委員会 会議録

日時 平成21年5月20日(水)午後3時

場所 寒川総合図書館 会議室

出席 木村、鳥養、大口委員

小俣文書館長 高木

傍聴 なし

委嘱状交付式

町長から委員に委嘱状が交付されたのち、町長のあいさつがあった。

役員選出

圭室委員・内海委員が欠席だが、圭室委員に継続してお願いしたいとの意見で一致した。

議 題

委員長不在で、副委員長は規定上置かれていないので、木村委員が「仮委員長」として議事を進行することになった。

(1)平成20年度事業結果報告について

○資料1にもとづき、平成20年度に実施した事業について説明した。これに対する質疑は出なかった。

(2)平成21年度事業計画について

○すでに昨年12月の委員会です承されたものだが、21年度に入り、日程や内容が確定したものなどを追加して説明した。

○事業の裏付けになる予算が確保できているかどうか確認の質問があった。

(3)寒川町史研究の投稿規程について

○投稿規程を検討する必要性が生じた経緯について事務局より説明した。

○査読は、編集委員の専門分野では手におえないことがある。特に民俗、地理などの投稿があったら専門家に査読をお願いする必要があるが、その場合は謝礼が必要になることもあり、予算的な裏付けができない。

○この投稿規程案をたたき台に制定する場合、図表などの割合を制限すると、写真紹介などの記事を投稿してもらえなくなるので、この条項ははずすべきである。

○今回の投稿者は海老名市史や綾瀬市史でも執筆しているので、そのときの原稿掲

載の経緯やその取り扱いについて情報を収集する必要がある。

- 引き続き情報収集に努め、規程の制定の是非も含めて継続して検討する。その間に、今回投稿のあった原稿を編集委員各自に送り、内容についてよく検討してもらうことになった。また同じ原稿を、石造物の専門家で寒川町史、海老名市史などで執筆経験のある鈴木忍氏にも見てらっはどうかとの意見がでた。

(4) 町制施行70周年記念誌について

- 近隣市町村の動向について説明した。
- 70年前は昭和15年である。この時期、つまり戦中期を聞き書きなどで振り返るには、今回がラストチャンスである。町の行政、銃後の暮らし、戦場、子どもの思い出などさまざまなジャンルにわけて、手記を募ったり、聞き書きをしたりして、町民が誌面に登場するようなものを作ってはどうか。その際、写真を多用することを検討し、また戦後のことは焦点がぼけないようにするため、あえて割愛する。
- 内海委員とよく相談し、次回の編集委員会のときに骨子案が固まるようにする。

(5) 文書館運営審議会委員の推薦について

- 町史編集委員会から選出する文書館運営審議会委員は、木村委員を継続して推薦することになった。

(6) その他

- 町史研究23号に載せる花川用水関係史料の進捗状況について説明した。翻刻の優先度を三段階に分けて検討した結果、一番上のレベルを全て載せると60ページぐらいになる見込みなので、これで作業を進めることになった。また、馬場弘臣さんの講演は11月14日に決まった。
- 調査報告書については、6月13日に筆写ボランティアの説明会を実施することになった。
- 運営審議会委員が、公募も含めて出そろった。
- 次回会議は8月下旬に開催し、70周年記念誌を具体的に練る作業を行う。日程は事務局が調整をはかること。